

令和 7 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立 福岡講倫館 高等学校

49

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>自立した人間として、これからの時代をたくましく切り拓き、社会に貢献できる人材を育成する学校</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・創造性－幅広い分野に興味をもち、既存の知識や異なる意見を組み合わせて、新しい発想を生み出し、社会に貢献することができる生徒 ・協働性－多様な考えや価値観を尊重することができ、課題を他者と共に主体的に解決しながら自らの知識やスキルを高めようとする生徒 ・継続性－自己実現を目指し、生涯において常に学び続け、変化の激しい社会を理想や高い志をもって生き抜こうとする生徒
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知識活用による思考探究教育及び生涯学習社会の教育を踏まえた教育課程の編成 ・異文化理解、多文化及び多言語主義に柔軟に対応できる教育課程の編成 ・学習権の保障、人権教育、インクルーシブ教育の充実を図る教育課程の編成 ・公共的モラルの教育、主権者教育、社会奉仕の教育を必要に応じて教育課程に編成
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挑戦する人－失敗を恐れずに、新たなことに果敢に立ち向かう人 ・可能性を信じる人－自分の伸びしろを信じ、何事にも妥協せずに努力する人 ・信念を持っている人－一人に惑わされず、目標のために邁進する人

学校運営計画(4月)			
学校運営方針			評価 (総合)
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・スクールミッションを推進するため、総合学科としての特色をさらに生かし、教科横断型の学びに挑戦していく。 ・様々な教育活動の中で主体的な学びの実現とアウトプットの促進を図る。 ・様々な学習の改善を図りながら、さらに適正化・一体化された観点別評価の実施を図る。 ・地域ボランティアや企業・施設との実習等による連携、社会人講師の招集を勧め、地域と共にある学校づくりを推進する。 ・職員の危機管理能力の向上や、生徒への安全教育、マナー・モラルに関する教育の充実に取り組む。 	<p>○カリキュラム・マネジメントによるキャリア教育の充実</p>	<p>キャリア教育の充実(進路ガイダンス、上級学校訪問、自分だけの時間割作成)</p>	<p>A</p>
	<p>○教科横断的な視点による資質・能力の育成</p>	<p>個別最適な学び(100超の講座開設、少人数制授業、学習コンテンツの配信)</p>	
	<p>○言語活動の充実及びICT活用による授業改善</p>	<p>協働的な学びの計画(対話型学習の推進、専門家等との交流授業、生成AIを活用した授業)</p>	
	<p>○より主体的な学びの実現とアウトプットの促進</p>	<p>協働的な学びの計画(生徒主体の学校行事、地域との連携)</p>	
	<p>○授業と評価の一体化及びPDCAサイクルの確立</p>	<p>教務内規の見直し、教科会議の充実による評価の均衡を図る</p>	
	<p>○いじめ等の未然防止に関する職員研修の実施</p>	<p>いじめ等の未然防止教育、教員の発見力・対応力の向上を図るための研修実施</p>	
	<p>○教職員の人権感覚の向上及び生徒の人権教育の推進</p>	<p>公共的モラルの教育、主権者教育、社会奉仕の教育を進めるための研修実施</p>	
<p>○個の特性に応じた特別支援の推進と教育相談の充実</p>	<p>学習権の保障、人権教育、インクルーシブ教育の充実を図るための研修実施</p>		

		自己評価				学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価 学校関係者評価委員会からの意見
総学推進	「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」の指導内容を深化させ、教育活動の充実を実現する。	本校のスクールミッションに沿った探究活動のさらなる充実を図る。	・発表に向けて積極的に取り組んだ 生徒：99%	A	A	「産業社会と人間」では、福岡の課題とSDGsについての発表、「総探」では、論文作成を計画的、効果的に実施した。次年度は地域の企業との連携など、「総探」の探究活動を充実させたい。	A
		「総合的な探究の時間」が教科・科目等の横断的なカリキュラムの軸とする。		B			
		各年次での準備を計画的に行う。		A			
	100周年総合学科発表会の内容精選と組織的な実施計画の充実を図る。	早めの準備と計画を立て、生徒実行委員と教職員が協働できるようにする。	・来校者アンケート「研究発表プレゼンテーション力」が「とてもよかった」88%	B	B	100周年総合学科発表会に向け、定期的な生徒実行委員や係員の先生方と会議や下見を重ねた。次年度は12月に早まるのでより工夫したい。	
		様々な科目の学習成果を展示及びステージ発表できるようにする。		A			
	より深く楽しく学べる環境をアピールする。		B				
広報	生徒・保護者・同窓生・地域などと協力し、開かれた学校としての役割を果たす。	本校の教育ビジョンのもとに、学校情報や学校の教育活動について広く情報提供する。	・今年度12月までのホームページ更新数は15件。インスタグラム更新数は42件。ストーリーは72件。	A	A	SNSの積極的な活用とコンテンツ制作に注力し、学校の魅力発信に大きな成果が見られた。オンラインイベントへの要望もあるため、今後検討したい。	A
		年間を通じて、継続的に活動する。		A			
		学校の魅力を多くの人々に知ってもらう。		B			
		深く楽しく学ぶことができる総合学科高校として輝き続ける。	必要とされる情報を必要な時期に発信する。 学校関係者が必要な情報を適切に得る機会とする。 中学生の進路決定や深度指導に応じた情報発信をする。	・オープンスクール来校者数1200名、1日中学校体験入学11校(340名)、中学校訪問9校(360名)、PTA訪問2校(100名)	A	A	オープンスクールの参加者数も2年連続で1,200名を超えた。細かいデータを中学生や保護者に提示するなど更なるイメージアップを図る必要がある。
教務	授業の評価をより効果的なものとし、教員の授業改善や生徒の学習改善の取組を図る。	生徒に観点別評価の活用を促す。	・情報・研修課授業の授業改善への授業アンケートから、観点別評価の意識の向上が見られた。 ・Classを活用して、学習時間調査を実施し、各担任が学習時間の活用が増えた。	B	B	観点別評価について、実践例の共有を行いたいと考えている。生徒の学習意欲向上と、授業者の授業改善に繋げることを意識し、学習時間に繋がるようにモチベーション向上を目指したい。	A
		教科内で情報の共有を促し、よりよい評価方法を確立する。		B			
		学習時間調査に必要な項目を精査する。		A			
		各進路に必要な科目等を協議し、科目の設定を図る。		A			
庶務・図書	開講科目の充実化を図る。	生徒の科目選択のミスマッチがないよう、教科と連携を密にする。	・オープンスクールの模擬授業「科目選択」に興味をもつ生徒が多かった。	B	A	本校の生徒の進路実績、地域や入学を希望する中学生の本校へのニーズを理解し、より良いカリキュラムを作らなければならない。総学部や進路部と連携し、開講科目の充実を目指したい。	
		地域の中学生・在校生の本校のカリキュラムに求めるものを議論する。		A			
	諸式典を効率的に実施できるよう企画立案する。	職員が協力して業務に取り組めるよう企画する。	・諸式典で職員どうしで協力し、業務を遂行することができ、式典の開始時刻順守率は100%であった。	A	A	一部の業務では担当者任せになっている部分があり自分事としてとらえ業務を遂行できるようにしたい。	A
		業務遂行だけでなく、職員どうしで連携しながら仕事を継承していく。		A			
	業務は責任者任せにせず、自分事として向き合ってもらおう。		B				
	職員・生徒ともに主体的に読書に取り組み環境づくりに努める。	図書館まつりを年に2回実施する。 職員・生徒ともに主体的に10分間読書をする。 図書館別館を整備し、多くの生徒に利用してもらう。	・図書館まつりを年2回実施した。 ・図書館通信(コーチャン通信)を系賛来通学期に1回発行できた。	A	A	図書館別館の場所を移動し、図書館まつりの充実を図った。今後は普段から多くの生徒が利用できるような方策を検討したい。	
情報・研修	ICT活用による授業改善を図り、指導と評価の一体化を目指す。	相互授業参観の活性化により、平時から授業観を語り合う関係を作る。	・ICT使用率96%、生成AI使用率36% ・授業改善への授業アンケートの活用率77%	C	B	授業改善への取組を活性化するために定期的な教科研修を行う仕掛けを検討したい。	A
		授業アンケートを用いて授業改善策を検討・共有する。		A			
		ICT機器活用に関する「困り感」の解決法を共有する仕組みを構築する。		A			
	教育課程の留意点を踏まえた教育活動を目指して、職員研修の内容を工夫する。	研修動画のライブラリ化により、研修の振り返りを促進する。	・研修動画累計視聴100回以上 ・研修希望10件	A	A	ライブラリを活用した動画研修への転換を図ることで教員の負担軽減を実現し、生徒対応や教材研究に係る時間を増やしたい。	
		校外研修での学びを組織に還元する体制をつくる。		A			
	各分掌・教員に研修内容の希望を募り、時宜を得た研修を行う。		A				
進路指導	生徒の第一志望進路を実現するために、確かな学力の育成・定着を図る。	模試等の分析を教員間で共有し、生徒の学力を把握し指導に役立てる。	授業アンケートによると、生徒は授業内で知識やスキルの向上を実感しており、資格取得に向けての意欲につながっていると考えられる。	B	A	小論文指導は、組織的に運営する仕組みを作る必要がある。資格取得は更なる呼びかけが必要。	A
		小論文指導・模試を行い、文章力を高めさせる。		A			
		積極的な資格取得を促し、進路選択の幅を広げさせる。		A			
		1学期に全年次対象の進路ガイダンスを行い、進路意識を高めさせる。	進路希望調査より、年内に進路を決めたいと考えている生徒が大変多い。1、2年生では未定が目立ち、進路についての意識付けが急務。	A	B	受験形態の変化に、教員側がしっかりと情報収集し、対応する必要がある。進路情報の発信はほとんど手を付けられずに終わってしまった。	
修学支援	課を中心に個々の生徒の情報共有を密に行い、個に応じたきめ細やかな支援を行う。	定期修学支援委員会の設置(年間5回以上)	本年度より定めたアンケートがフォームの入力に代わり、生徒は自分の思いを記入しやすくなった傾向にあり、小さな困りごとでも言いやすくなった。また、たくさんの職員で見ることでできたため、生徒の声を拾い上げやすくなった。	C	B	修学支援委員会ははじめ防止対策委員会と抱き合わせで月に1度行えた。話しやすい雰囲気や修学支援課全体で作り、困ったら話にきたくなる場にてできたと思う。	B
		欠席3日以上(家庭訪問)		A			
		話しやすい・相談しやすい雰囲気づくり		A			
		校内研修3回以上実施 研修情報共有(ワンノート利用)	生徒情報交換会の職員アンケートでは、様々な研修に参加したいという要望や、生徒情報交換を今後も続けてほしいという声が上がった。	B	B	生徒情報交換会、年間3回実施できた。研修情報はワンノートに提示し、職員掲示板にはることで、先生方に研修に興味を持っていただけた。	
生徒指導	学年や学級、学校行事などの集団における自己の役割を自覚し、責任を果たすことができる生徒の育成を目指す。	部活動や学校行事における生徒主体で運営する体制を作り、リーダーシップの育成を図る。	学校生活への満足度:76.9% 文化祭の満足度:91.6%	A	B	文化祭や体育祭等の行事は、生徒の活躍の場として、達成感や帰属意識を十分に高めることができた。熱中症対策等による安全確保、更なる規範意識の醸成が課題である。	B
		一人ひとりの役割や目標を明確にしてチャレンジ精神を養い、自己肯定感や帰属意識を高める。		B			
		集団生活における規則の重要性や必要性を理解させ、規範意識を醸成させる。		B			
	自尊感情を高めるとともに、他者を大切にし、人権尊重の精神をもった生徒の育成を目指す。	職員間の情報共有の徹底、細やかな生徒対応でトラブルの未然防止、早期発見・解決に努める。		B		生徒トラブルの対応にかなりの時間がかかった。トラブルへの未然防止、良好な人間関係を構築するための自己表現の理解が課題である。	
		いじめを起さないための人間関係づくり(クラスや部活など)の指導を行う。	いじめアンケート等への回答率:約93%	C	B		
	SNSを使用する際の注意点や危険性を十分に理解させるため、本校独自の講話を行う。		A				

